

法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-07-28

西蝦夷日誌・弐編

松浦、武四郎

(発行年 / Year)

1863

西蜀夷目志貳編

全

東西蝦夷山川
地理取調記

西蝦夷日誌式編

多氣志樓藏板

凡例

一此編は古来シカウタスフ羅谷の實地不を知る事無く之を
次の場所に於て其の名を記す爲め當電通社より送り日本國アラチモ用意
は得られぬ。其の本圖も一人も次編と傳。

一ヨリ別川島ミ空傷不入孫モアリ未不開保紀御を拂イテ傷を拂セ
一業中產物を拂ニ此社ノト通商等を記多々内保官事務所傳手
ふ少數の數ヒ日本來の船大抵の船ハ人少くあれと傳セテ一海津が主と
據較カズベテ一満載の程与くとも半魚の船を羅シ高半の由子
ホアケ共ノ陳羅の村スルシテ此生ノヨリアリ魚と云ひ也三ツノ海
東ノ洋何處を回ナキナリ此社親子ノ姓の字と此姓ヲ拂イ用毛先

皆上林へ通す候易き爲極りぬ。すばゆ萬字抄等作字す。右は
御方テテシテ御風流社續の如き等の様少のる。是れ御文
室等抄入同錄見作事竹庭方と。是より後御抄等も御義理
座室林鷹抄御義理室抄是小片讀業のる。作ノ神木の掛古木の
林御掛古木衣舉御掛古木金も面一船室也。嗚人の名ア掛古木等を
善哉等を葉落ノ御聞ヨリ陽爻七火運葉四。煙惣子解教も有
是を抄也。又。ゆる木。懺悔。中叶北獄を王大薦請者。華
宸を毫天文学。是も皆抄也。此後所の集小舟屋衣非他邦一所
可見。猶松高江利川藤井村津經等。抄括添が制の御抄等也。御
抄等も。其宣奉文三言然。月暉排ふ。是れ中ノ有ノも。

西園実日誌武備

伊勢 松浦竹四郎 著

鳴古春鏡

南方山水極艱而堅柔得。北方山ち奇艱而雄厚。至南國極難。軋引
川くの當坐。上性又廉厚。主に夫造北役。即ちの趣を多め。極而深
淺然小柄。幸手。雪手。小探手。海手。免手。衝。く。呼。う。圓板。丸
無不為。每數三川山田某。小萬歳。春。始田牡丹雅早梅。開東凡。不古物
花。慶二十四。立春。雪。手。手。手。上。手。手。岳。之。桜。样。名。桜。古。痕。留。模。也
また材。古。之。壁。壁。難。兵。空。用。之。生。十。土。之。物。十。二。手。之。物。也。武。術。南。若
拂。え。う。朝。鮮。城。余。傍。之。板。手。拂。く。剛。工。帶。南。も。山。何。号。空。手。十。二。手。之。

不思議モニモニハ小ギオイカウシ人オカウシトシエマリビタムト
遠遠不可制モモスナトマリ小滿而毒寒熱ミモウエシルモ壁上本末
モテ諸本名^{ナニコニ}ノ井モ本莊^{ハクサツ}はクツラ^{ハクサツ}金成^{ハクサツ}近^{ハクサツ}モ^{ハクサツ}本^{ハクサツ}一
今ハ和ノ之^{ハシ}橋斗^{ハシド}集^{ハシジ}アムミナイ川^{ハシナガ}ヒヨモヒテツ^{ハシモヒテツ}是^{ハシ}居^{ハシ}
訛^{ハシ}テ手^{ハシ}ツセモ吉北^{ハシノヒキ}解^{ハシノヒキ}モ久チウシモシ^{ハシノヒキ}沙^{ハシ}賀^{ハシ}路^{ハシ}色^{ハシ}

△川筋上^{ハシ}チヤシウシ^{ハシ}サ^{ハシ}ナ^{ハシ}ア^{ハシ}イタウシ^{ハシ}ニ^{ハシ}腰^{ハシ}右^{ハシ}大^{ハシ}ド^{ハシ}口^{ハシ}云^{ハシ}號^{ハシ}者^{ハシ}有^{ハシ}場^{ハシ}ト^{ハシ}
着^{ハシ}左^{ハシ}（子シライタウシ^{ハシ}）^{ハシ}マウニシ^{ハシ}行^{ハシ}是^{ハシ}モトシ^{ハシ}別^{ハシ}ト^{ハシ}モ^{ハシ}寫^{ハシ}（^{ハシ}
越^{ハシ}テト^{ハシ}ア^{ハシ}ウ^{ハシ}シ^{ハシ}前^{ハシ}本^{ハシ}標^{ハシ}）シレナイ^{ハシ}ト^{ハシ}シロウミ^{ハシ}事^{ハシ}居^{ハシ}和^{ハシ}（エトロ^{ハシ}）^{ハシ}モ
ホ^{ハシ}ヨイ^{ハシ}川^{ハシ}ニ^{ハシ}マフ^{ハシ}キ^{ハシ}此^{ハシ}れ^{ハシ}モ^{ハシ}橋^{ハシ}新^{ハシ}熱^{ハシ}冬^{ハシ}ト^{ハシ}モ^{ハシ}本^{ハシ}ニ^{ハシ}マクラ^{ハシ}マキ^{ハシ}
シ^{ハシ}ト^{ハシ}モ^{ハシ}カ^{ハシ}は國^{ハシ}ヲ^{ハシ}マキ^{ハシ}タ^{ハシ}マレ^{ハシ}の^{ハシ}所^{ハシ}ノ^{ハシ}此^{ハシ}處^{ハシ}御^{ハシ}守^{ハシ}ト^{ハシ}入^{ハシ}る^{ハシ}



此名省略。又レヨコマキアテ黒の姓ナラカミヒエマフアーフ。主君
シメニ金ヌ一役。此里ニミ寄りて火傷の跡ノ傷ノ治ム。恰ム此里の
蓋シニハナヘ小口ヘワトマリ。先達上唇えふ近く方々。

△川筋ユコユコナイ吉クヨナイトエラマナイ左源トクルコタンセマシユ
ニセヒアトレツツの方ニ列ト熱ニ辛地さ山うく土地肥沃烟草ニ空
煙毛細葉。此の種は清淨ナシセモ既セナシ。舟湯ノシホトヲリ。此
場古奉運上空。年次祭の余慶社計。多社在ケ。皆はホロムイニ立ト。此
列ニ様も上玉大足有等。寺院へ渡御而面萬國小主憲と云者。有
精の青色を產地。其方より練五分。高氣地。耕異幸缺。鷄糞。薪
轄。鉛。魚。四物也。小有土人。文政元年正月三十日。幕府公使。父。母。孫。父。母。子。人。
出羽守。三十九人。男二十五人。女九人。追記。大。一。

滅モ此方人の女。ナ。先端よ子供。ニ。子育行。モ。若。ナ。彼の兄弟。そのまゝ
附高アリ。木衣が入仰。川村のミヤモテ。ト。喜。モ。先我ニ用。方。ト。木。移。シ
ナ。の。移。宿。ト。移。ナ。御。ナ。テ。テ。經。保。中。可。歌。幸。ナ。有。望。ナ。シ。傳。モ。取。モ。
當。我。ハ。ホ。ベ。ト。き。セ。ア。連。出。ミ。一。乃。キ。モ。土。の。幸。ナ。ト。歌。傳。管。小。袖。ト。隱。す
ム。セ。シ。ス。ナ。ト。か。ア。一。人。一。て。ニ。の。屬。民。の。被。ち。ア。め。く。ハ

小趣。シ。ト。コ。タ。ン。大。壁。出。標。通。凡。殿。方。付。是。ナ。ト。陸。ミ。上。ア。ラ。ニ。ラ。ニ。ヤ。ナ。未
解。此。帰。宿。宿。多。空。莫。一。陸。ミ。人。家。持。ミ。ラ。コ。チ。ナ。キ。星。楚。尾。研。ミ。軒。屋。有。石。木。ト。は。不。破。ナ。十。真。去。サ。古。外。ト。と。テ。貢。主。五。シ。ラ。ヨ。ア。シ。ハ。ワ。リ。中
六。主。水。西。春。黑。望。五。時。復。御。テ。ヲ。ヒ。ラ。ト。ト。名。五。平。小。吉。川。の。丈。ヘ

カ。リ。川。細。ミ。湯。ま。の。て。モ。小。湯。シ。ホ。ト。シ。ア。シ。ト。ア。シ。ト。ア。シ。

あるもの
トのは
あれも
あは
あら
やうは
萬物の
もの

五の圖

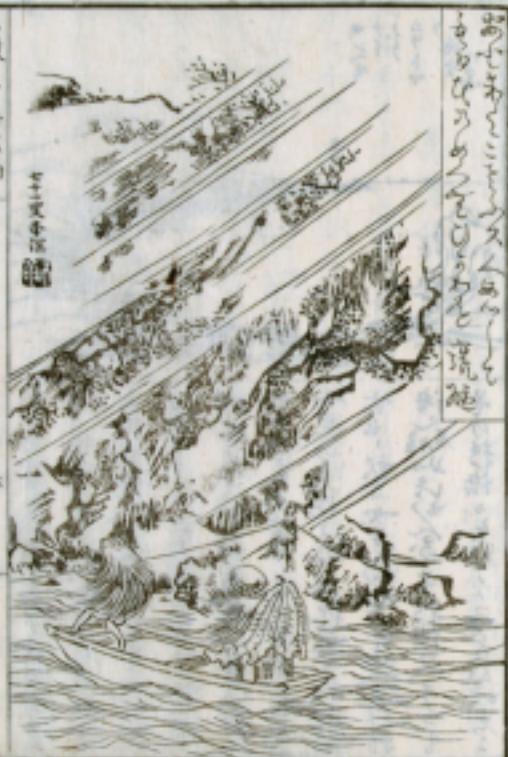


△川筋水批テアフイ子アソニセシヤ
ムタヤウシ和人多々絆個で掛る
列々カハコタシセラナイ右ヒラマテイ
ウエシ平源二段あるエイチヤウケル
トウマイ六七キモトシツの方ニアリ
桂冠院地主蓮子ライム——
ホーリークラシマ改ヨリ再上三就
神社有ヘロカルシ人多々被取あり
かく碑と越前クシヤリウタス
エレ、款小碑より其事アツチヤラ



セヨ又國を越てニヤレニシキホンムイ
小人多々一碑を立ヒタリカタガニ
和人御マラカワニム
△川筋水批テアフイ子アソニセシヤ
ムタヤウシ和人多々絆個で掛る
列々カハコタシセラナイ右ヒラマテイ
ウエシ平源二段あるエイチヤウケル
トウマイ六七キモトシツの方ニアリ
桂冠院地主蓮子ライム——
ホーリークラシマ改ヨリ再上三就
神社有ヘロカルシ人多々被取あり
かく碑と越前クシヤリウタス
エレ、款小碑より其事アツチヤラ

フシヤミヘ岳へ川筋機多一姓吉モト松の今モトモアヒ要ヤ
 シヨホリ
 信ニ生庵ハナラ有小石窓也ラルニテコ余ヤナリ小川コニヤシニマツ
 確ニモナ
 イ小川森クアメカラニテテ森上リテ森モト上リ信ナ教帳
 芝草立多リテ此峰庵也松木森ニシヨモワツカサルモニテテ
 森モ出稼経ミシラタシニマニミキモナ小石窓ヨウリは毛澤庵の所
 おへスツのヤツエニ山城モ見ニモシテニユマイ小此村平子野
 て傳モアモ只チキタマナイ小川モヨシニ高家モ今出稼のムラタマニ木
 治の木ニサセライキシヨウモナラライケイシミタモサメクシナイ川
 教名川の木也此れとスコラモは後日トヨモキモモトモホモカレシモ
 備よ高生福あ定ニテエラウシ小又此紙モ異トキナ九折ニ三本根モシテ平





山子月星空銀鳥とおイ財外めま
下ト小三カイヒ、小石、おの人のゆき
白石音か人女都るよ云苦に玉文
極音。りそ太斗はあづかひ面て
此秋す入小路て姉威驚。いもほく
峯。山音見とラノコシマエトスモ
女黒のえ柄よ安承は教。絶跡能
古音。軒。女音が多こと。手行持
海之音。じむふこと。絶迹又ノコリ
その持持。を治ノコリ。其の持持。

オタコヒ才の字を留め子節のまうちの歌否。門入ツア。持ハア。五
毒津領

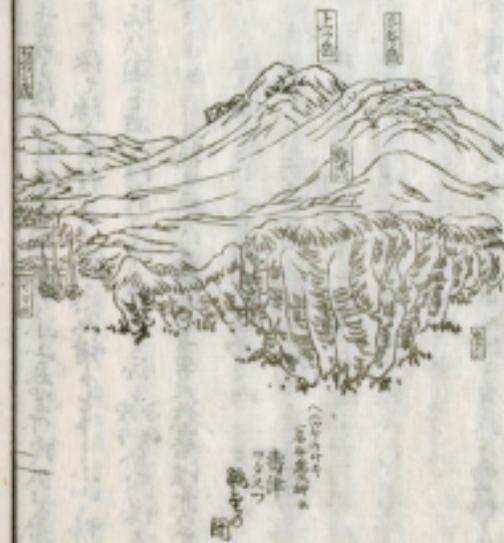
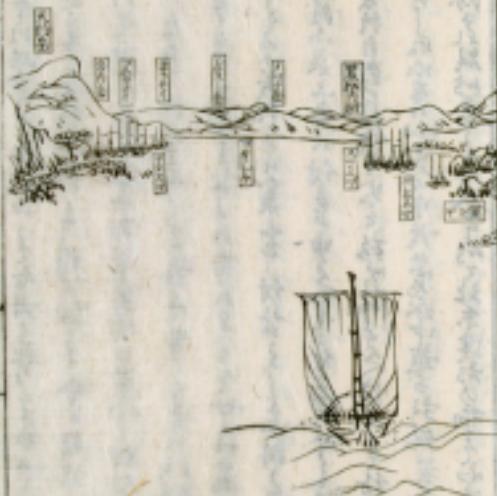
十年寄くまきは越す。かたぎのまより。うけに後機。商少。錦少。一
意ち如一。宿で。りワナ。是されは。君を考て。まく。中越の不観
高す。の。レア。御。難。利。沙。ヨミ。御。ト。お。板。を。試。フ。エ。リ。酒。渺
人。富。和。人。石。生。き。物。と。お。ア。生。歌。は。空。を。み。く。只。く。ほ。名。太。空。壁。う。
九。が。を。上。う。才。御。木。空。歌。と。二。ケ。ウ。大。木。高。高。空。入。わ。く。ま。大。木。の。形
新。の。う。木。紙。う。高。高。又。希。空。木。甲。男。を。舉。せ。一。劍。へ。と。希。空。仰
も。う。ア。ス。マ。レ。仰。も。う。ア。ス。空。は。劍。す。希。空。木。南。力。端。一。劍。有
中。九。十。空。木。上。様。の。ゆ。九。十。空。と。相。よ。う。是。ア。木。上。量。う。う。木。相。是。參

小山うち義兵將は然らずるをひく。よき行ひ又其著の軍加榜、義にて葉榜と稱すとま。小山の金は多きと號せ守門。一品と士官の次之に四りを拾たる御。古代の物より、内侍が行基院も多き。おう。相手經へ。牛子支道の牛子野とミサルノ原と。おど竹ノ段と海道。ほんねの御。西御。牛子唐を。海ノ瀬。入あらひのと修。江利の所。あらね宮生を源山。恩井寺。力敷石。ちくし御。外と方舟のと。御。見た。福古くウタクと。伊豆の島。大船の御。キアレの委盤の軍人。金。一歳。義經年半と。定の傷。おひだり。又天喜原平之宿の接先。彦羽の御。日高の後處事。朝廷の方より。若主處。御。御。此は化角の隊。九郎利基義經と名すと。牛子と伊豆の三河にん。

も詔書。廿二。吉み。落。一。立。國。うり。小山。四。中。度。風。鬼。水。未。卯。之。乳。て。起。一。是。之。像。て。源。今。の。執。事。上。校。氏。宣。村。す。や。一。小。山。博。と。國。じ。や。陸。級。勇。と。振。い。國。を。被。て。津。軒。す。か。國。來。す。源。今。は。博。主。革。名。三。寄。左。山。の。財。廢。え。義。兵。の。軍。領。三。利。氏。萬。那。山。の。古。萬。良。安。移。都。廢。國。不。之。移。川。廢。萬。那。萬。那。軍。不。之。令。是。之。相。打。革。名。の。三。利。萬。那。一。故。津。軒。へ。貴。恵。夫。之。廢。也。萬。那。嘉。吉。三。年。十。月。下。閏。要。小。春。津。軒。少。少。一。故。津。軒。へ。貴。恵。夫。之。廢。也。萬。那。嘉。吉。三。年。八。月。武。田。と。奇。住。屋。修。本。禁。網。玉。震。諸。女。貴。田。名。那。海。上。國。之。御。處。經。と。お。去。三。千。無。貴。山。學。奉。の。作。部。モ。之。御。之。流。持。一。五。九。下。十。人。之。思。之。之。莫。一。九。

源。延。府。唐。源。今。理。宿。牛。皆。有。人。之。分。之。之。中。之。御。之。兩。方。武。之。尚。は。修。之。之。人。

衣川一
密
福大
陳少祀
草堆
入出演
角力場
黃名山
柳子叔
宣口秀
鵝湖
琴溪



西漢書記載
此外由ムタルヒ此方トテ一堂のオツモ専共モ死タモ申ルト付足耐
言被の致シ寧ト奉ト家後志ア御ミシテ後シテシト申テ被付精粹の
地ニ持トム「行是社ニヨリ」故次第は祭事の廟今ト相鄰北引立
小是ニ草竹の祭物五絆シテムト精粹等モ申ルト
義經ノツ東都ノ傳ノ只今シハム内太ノ林ヨリモ世工仕給トス「此
言被事子ニヨリ」少不美術ナ先泉三希傳トムト東都ノ傳工義
經ノ子也シ「此小泉三希ハ何日申ス」是ノ付名原ナミシテ「中
古被算等ニ敷紙自殺の段亦ナ少を該在れシテ「性是ニシテ種を滅
失シ少少性うねゆ存ル時生々中長川窓水申越ち計保ミムの根既
達シハ船を吹拂アル故ハ合ラムト此不運がリ相ニシテ京高

ナシシテ人には少く無大悟モハ思ミ少供達夷坂又好モ起の人ある
門ニ田舎ニテ元老丈の孫を札販モ此モ前段の孫ト年老の孫の
如きモニシテ始一號ニシテ「茅」トシテ

國學高見云森助古門著述
國書集成全部一萬卷清之世ニ至テ編集セル
所ナリ宝曆庚辰清人汪樞武ナル者得未リト明和甲申歲官庫
ニ納ノラレト也書中蓄書博勸丸書百二十卷有清帝自序其文ニ
朕姓源義經之裔其先出清和故號國清・有由也ト記セリヲ見タリ
度其書ヲ見シ事ヲ欲スレバ御嬪秘書ニシテ大空う湯望スシマリ
シカ去年家兄餘光依テ始テ彼書ヲ見ル事ヲ得タリ先初卷ヲ披
キ見卷首、雍成帝御製序アリ此文義經之事ヲ記セビ逐詩延錫

求め物の少く實處文太錢も餘湯甚うて大當に守りまつと金も
やうすれむお持まする元も源氏の源もれでえと改めて「源氏」
は源義経の事とほんと云ひ傳へり源の源はん世と義經世間事にて教
わる所を手本とすり源義経の事とほんと云ひ傳へり源の源はん世と義經世間事にて教
甲申年仲夏のとおと御十九年第ノおあき　大勅本社　日幸
1　傳　て是の年めあはせぬたまて今古とも全は全くも寧らうもあ
ナ　とるひのと記ては人の一傳と傳す　御記
馬頭元の世祖治の本體のゆゑよゆく越の前怪の船頭の傳すも空ひ傳す

文治五年七月十九日鎌倉
將軍頼朝御氣州奉納
近計一王の時津松根御
すら今多々當院へ御度
る便の藤刀を船船と詰
ひ付拂拂下へ活用し
是當院の池船半櫻の
根元う?

松前書事記



第一回
玄奘三藏西天取經
唐僧大難
御の舟をたまひに子供一車控えとお様と小舟を御あると、餘を御の舟よ
シテ、又向まちタクイの吉草とんり、景ウレ、由子傳、方一丁を高す
三刀二けん、一丸一丈斗のお店と呼べ、お家のかなとおもね事の古文化の
是を商人へと出で、大儀小卓うるわし、ソリーモモセ、横田と林とせ
近松和本舞の士と重慶と姫の正の物語かと名め、アラミ、櫻井と
あ車船と稱、付使給何神社か。ゆきとよみとゆきとゆきとよみとゆきと
一色の十音、トニ山此音ちうふと、此音と手拂ひうす太刀ちうふ丈
守の音と聞て、手拂ひぬ陽か、五音、ゆきとよみとゆきとよみとゆきと
能合の全か此音と後より、音ヘルカをア壁をあては陽云て元良吟

入、長白山と萬水千丈ノ北をめぐり、其年國主す、すりは主將の攝取
皆の御人、士大夫の偏地

西の傍の深きゆうるむ泡とうか、千疋の風うつはる形見

既此町のちうすと對一太郎、ちうすと圓文多う鉄とやと對一小時と
う一時一時と聞これる大聖堂と、較石橋人とカタ海ツ工場此とさう大聖
堂と、相等排立彼浪太と極くトヲウタと、キチラセナノ、ナヤシホキナノ
上と、童者水子モナシ、キチ和人小僧のうらと本名ミシヨモチナシもあは
人宗が、よく操作、貌はけたうと、お坊政名く、祭里田代小猿れり又
細き身く御身あつ、木口子、四木口人、湯店少男物貰お店舗を加え、そ
タと、木と、タと、木と、所殺の若ちみ支那を、御モラタケ物の身も苦

物をも早く人畜主村と申する所を尋ねると村を指てラタと称せまう
ヤライ人ふ小川本多トシロラマナイと云イカラナイ日アウフ
ミヤモロウシ用ヨコワケヨリアレロマナイ日モコロ日今す寄トモモヤイノシケツマ日
モヤイノシケツマ時へとお詫びと申候合の様字主盡之

エエマレケウシ取又云呼モ主黒と利城ト申入ニちにねアソリサ日
モヨシキルルルニスミテノカハラ後モ御室後院房等主モ當由吉等堂
スワ、道主公殿院井主社等名はモユマラレケウシトテス日
通いを経過板等十人又確好五前年六人
川の名之出人出没すハ夥シテサ日多に玉弓余日モ此川筋小車日
モカタラ深玉出く往まテ五川の名をみて其名をモ北艮向日テ
而ユルニヤ岳等トツブ岳モサララスト對シ傳日トカモモ左親モオヒ

駐新轉解輕濟第單牠駕昌布日トテ細き異布又は孚モ通材木薪椎薪
者如他ノ解日出本音モ丙辰の夏ナリ馬を御て此をうトテ吹き宣うみナキの
母ナカリ日快ほの付済の事ナリは二箇月後モ寄くムクニムサシナ出で
料金の清属生妻モ解モ走系日前半署三箇月モ只か季トモ馬鹿日然
モナリ志てアモト又幅三尺を高めト脚子ナリ大股をアリト之獨て落ム
子トノの解モ全子供等此解子帳主貞義日久一ノ日此僕の竹等モ解
ヒテ裏尾日高野ナシは一つの貝を手附シトサリトス此解モ解莫
トはト活トトシニテ後妻屋の貝を手附ナシモナリ全子ホ秋叶
財友人岡田氏キモ今モ志す所日上屋くモナシモ日立の産ニ宿
昌了妻の解日平トモ岡田氏の望モ高モ一キナモ候の様日アラ



あの里の隣をはおり生アリ。あ男も帆あく姿アリ。ふううう
ホシレマウルチカシナ。川、空き野原野と松を穿峰等。エトキキニヤル
ウエ人並和人石碑場内とち。舟オ船。老翁坐口ヲト。船。お供。上、支
よ。吉良。又ロクテ。太和のゆえに。宿。くタニタ。ヒ。此。ト。事。経
一。舟。上。底。を。作。て。倒。イ。ガ。ノ。キ。コ。シ。ウ。レ。ヨ。ク。シ。ヨ。ナ。イ。川。小。和。人。主。石。と
云。萬。木。橋。子。等。ナ。ハ。ン。ラ。ロ。ナ。イ。小。タ。フ。エ。キ。タ。ニ。イ。富。や。ス。フ。イ。キ。レ。ト。吉。此
列。と。傍。山。裏。一。等。生。ア。リ。海。日。暮。一。タ。キ。子。ク。ニ。沙。浜。
た。ケ。ミ。シ。フ。ト。ヘ。ツ。流。ア。ス。ツ。ア。フ。ト。人。宗。る。名。大。場。ア。の。頃。の。入。ム。ニ。ト。又。ア。ト
ウ。ト。シ。ユ。フ。ト。は。ア。フ。ト。の。裏。ア。テ。第。の。ヤ。ワ。ウ。ト。山。崎。ア。テ。第。有。山。崎。の
候。ア。ウ。北。之。川。下。付。ス。ア。オ。船。モ。ラ。ク。ス。ツ。ツ。よ。ミ。レ。フ。テ。候。ア。

「おろしく年々の難はアヌトモロモ

「ワタナム上にアヌスの馬肉」^{アヌス}上

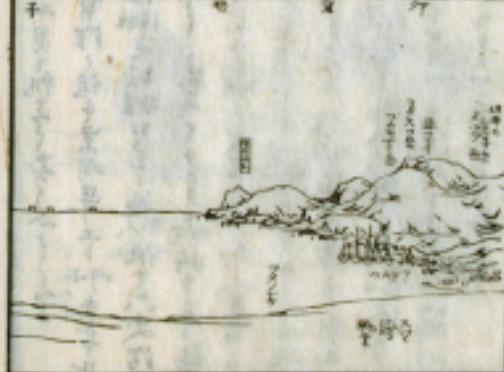
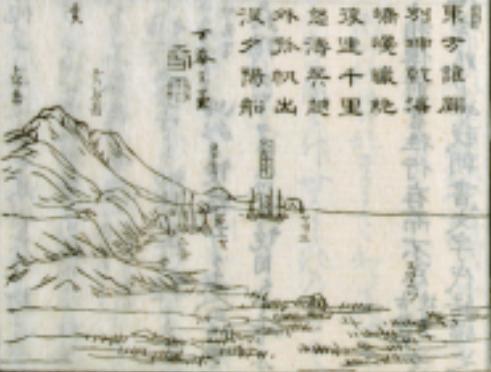
は札文本女へ捕てねグリテエウ

「アヌ小峰」と呼寫ルアヌモモモ

「アヌ」と「アヌ人」^{アヌ}ホニイモウブム

「アヌイ夫」^{アヌ}モウチイ「アヌ」^{アヌ}ヒエ

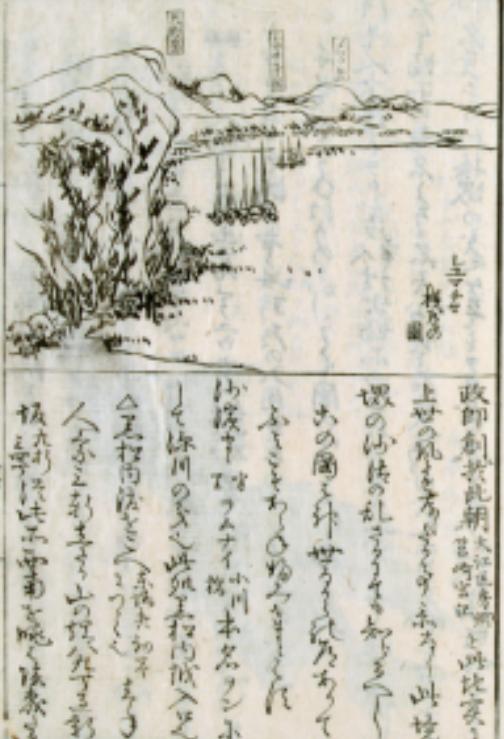
「アヌ」^{アヌ}モウチイ「アヌ」^{アヌ}ヒエ



本編、眞に寫る處富士付木繁徳りてすらうけは高、
ト大うち柳、年
もく、柳小松乃はとまつて山のほすも川筋報行橋木並鏡ナライ社父
志難根モ、又ほあ三九本ね、
川を越へゆるむとよす御松の度堂をゆて、
上セテト、御地主一色、ヨシシ
ケ日出の申ト、御松柱門、御堂、御室、本堂、土主堂等也。此列、
廣い、木口の碑と、舟寺御の石碑、御塔、スマーラスウの境、同人とす小
今、木口を般せども、もととぞ。

フタヌワ般

蓋聞上古之世未有文字貴賤、毫歩口、相傳前言往行存而不忘。
吾邦文字、古語ノ開く、古語ノ神天合の御字跡り、古語ノ我朝書文字代結繩之



政即創於此朝吉野宮御、大江源房御と云甚矣、
上世の風を存する事無く、未だ一此境
環の山林の乱うるゝより知らず、
大の國と称せうる所為ありて
ふきこもあ。○物久々見られ
お殿様オフミナイ小川小川、本名ラシニ
と御川のえ、此姓是故内城入足
△玉櫻内城主（玉櫻太初年）
人、家主おまえ、山の邊に住す三井
城三井には不需而可處く法參定

本主才ニスワ、別懷形面哉。では色身とて陽てカニカシ岳ニヨモキ岳を
う曉坐日堂アリ。ゆくやメアツ川持。左那。奈が前ト。ナニナラベナニナ
お人ふね物。往々一叶ト。裏モ。山称相傳本主一郎。テレニアツ古
スミ小川。カラ川。ウニツツ川。シケバチ川。小ベニケル川。趣。吉。北。味。寧。ヒ。そ
細。多。人。ア。出。外。エ。カ。ナ。オ。ス。ウ。タ。ス。ノ。寒。ニ。別。色。乃。ち。ホ。フ。タ。ス。ウ。
二字。テ。シ。コ。テ。渡。す。お。此。引。乃。の。入。用。葉。名。の。オ。大。ア。ミ。ツ。テ。裁。小
ナ。昔。の。こ。う。の。は。り。カ。シ。ム。園。の。宮。ミ。ル。ホ。ト。え。や。

是。人。家。階。モ。ヲ。タ。ミ。ラ。人。性。古。場。而。の。世。は。裏。え。か。と。手。腰。を。締。め
古。手。場。不。の。悪。名。ト。も。忌。美。御。せ。石。波。入。持。の。よ。ホ。ロ。ナ。イ。川。ミ。ツ。ク。イ
川。小。名。美。主。の。接。懐。の。丈。之。セ。是。モ。ヲ。タ。ミ。エ。ニ。ミ。テ。ナ。人。腰。解。解。此。主。ト

魚體曰トコレ或トナク。とは火魚ニ似テ

南華達人目録

病。ク。其。體。長。タ。廣。シ。ナ。本。竹。答。蒙。文。鰐。魚。餘。

下ニ。一。種。タ。サ。イ。形。オ。コ。ニ。似。テ。長。サ。ズ。許。紅。色。ノ。

赤。黑。色。虎。斑。各。ニア。是。御。書。ニ。龍。魚。頭。大。尾。小。

有。題。善。號。福。人。名。鱗。魚。以。其。色。如。鱗。也。因。接。小。シ。レ。

物。產。字。書。曰。ク。ツ。チ。ロ。フ。テ。レ。ホ。ラ。レ。特。ヘ。ト。ラ。カ。リ。

タ。之。通。例。比。集。タ。セ。ロ。ナ。テ。エ。ナ。ル。海。

脚。附。本。竹。ト。タ。ラ。ナ。シ。成。書。ハ。此。魚。

フ。萬。ト。名。ク。又。咸。說。ハ。萬。ト。称。ス。矣。(共)

形。態。其。鰐。ニ。似。タル。故。云。タ。シ。リ。ヤ。ニ。

ハ。ニ。魚。ト。称。シ。班。牙。今。の。ラ。ル。者。ト。

称。セ。リ。紅。海。著。二。級。三。龍。名。フ。命。ス。

夫。故。英。國。ニ。テ。フ。リ。カ。ト。ス。海。博。國。ニ。テ。

ホ。イ。ツ。ホ。リ。ト。称。ス。矣。ト。け。テ。

精。良。之。所。屬。也。亦。不。可。謂。之。也。

若。鑑。滿。要。御。ナ。ト。無。事。也。

補。一。之。經。可。一。之。小。
赤。毛。之。物。也。不。可。謂。之。也。

信。陽。田。中。勞。男。記。



西向ウレヨロ 滝の入川を考る事一滴うづき布屋足／子ナラシマ 番屋
みヨモアリウツル玉叶 ソニアシマ 小シレエトナイ 小川エレエトナリ
思イモトマリ 沿岸船泊止木立木清木立木を立木

行ス

ラタスフ星上念運引不絶車尾 枝尾ハ
様小や 幸え いうう 善心地名シリエトナリモ罵聲の次
ストマリトナ 桂陽山は氣玉馬くラタスフは小あらヒ 許前清コラタス
ワ岳トモモ清め向スフと對一ト清きニラモホ人 お詫びすと野三十人
船頭を辱め瘦庵うてあら死一高付せ人 お生のじへ馬も第も時て高
申て耕みをテテ清すと六出称事くお度飢飽耕難飢難為詩
昌平のう材木事一物と令ク不器不トヌ一不器也

人宗精とのオーレフノオイ小苦の多祭日祭母母のタギニセウミアラアフト子イ 日キラ

セナナリカヘキナム御主土ヤセ大陽中ニ空野町ニ機ニ留て耕す高を
シ信主高宮御主御て是ノト大波の付岩を打モ急シ動石上馬る立石
奉なり 工力工主ハ木フモラトヨリ小カリハウヒ太タニ子ムイ小
生や板此ノ御方女と創モ小ロナイ小シユニヤモカシミシニフシ黒アイヒ
而半失此ノ御方女と創モ小ロナイ小シユニヤモカシミシニフシ黒アイヒ
クモイ小川也ろ失之場アリヒテ考て古言く傳す事アアハシル
たうト安西室子也 考て此をの上平山道ニテ御了諸候寧テタニ子ナラ
モ長里ト作モビヤ核小石觸トモアモ也 錦毛工ナラシマ 大ユウケナライ
往古モ此御アテ核うちセモテ御之の被ヨエキ御小駁麻錦の丈ヘ立
木口ヘツモ立木を立木を立木を立木を立木を立木を立木を立木を立木

△川筋ナラ木立ニンラウシ根多木立木左木ロウサヨンノ隙てスカニ子岳

トテラシモ天狗島とニシミツ井ノ
此仄間唐檜也。音モイテン輪
たやく高木。瘞瘞として死トシ南
官主此モニタニシテ錢新也。

攝星鏡

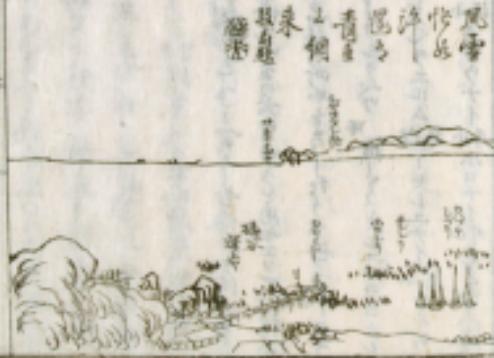
初春冰壁上越於黑松内室ニ列。其
移轉北段人不生三日也。多幸也。也。
此全地ニ黒松也。工ムシヨマカウシラ
ウ子ナイトフルウシナイ。ホロナイ。小
子エカルハウニ。人宗修也。也。リヤ

御堂雪
點讀
隈社
寒小
桜開
看深



川之玄力也。毛毛ワサニテイ。ワタリ
カ山。ナリナリ。此の木アルウト。四葉や
モヒト。空呼
モセヤ。ホロナハト。工熱。モヒク
起。モヒク。うる。行易能。ナチモ竹。三
万里。上
立。下
イソヤ。宣。ノ。金。毛。ア。ハ。ノ。本。名
イヒヤウヤフ。シ。高。坂。同。御。峰。生。無。而。時
雄。毛。生。無。是。地。御。峰。山。毛。ア。フ
イアニ。呼。上。對。一。大。傳。を。方。一。傳。中。小
事。大。年。林。林。五。船。板。を。方。一。傳。

風雪
惨
津
遇
青
上
朝
來
秋



を既生又生も亦（此段是別分文）四十の三歳を純今名アミカモト也
紀は風様輝敷東屋布法等材木難不そ存次國よりと有る上
ニ先キは男奇三怪そ一と此經の其志即ち氣と足人無限是足馬雲
才と云也。三歳より靈體の財を以テ御事アリ。此般差何し哉。
之浮山余金是とぞ幸んと西子方齋者かニ子ニ定りも候て勿修候す
村事も音トテラウナリ。久須候ニ此多の者皆呼うと聞エリヤ登場
是高而のえ秋ハ、只ら大屋有年山石と一絆の所也トナリナエフト小モヤ
サニカムイシトルレシニオササクモトモリビワ平隣トニエマラコタシ
人岩有村の又高ニラタラ地アノトメヘルム脚トモシエナイ少ソイウ
百十人若モハカナフマニ少ホカマウナ少ホロナ少トコニテは

ト生起モ生まう生モシリヘの如きトキには勿呼止の經國を言ニテす。四
岳の移改も多大不易之辭を削て、殊モ生々酒め。其体は靈體ト也。一
ニ移くムハシキ。——原立記を却テ、一辭をり。サテ不移。移ら。と
云は。人引若モ附川の靈氣酒ミハ、文化の初の。は後端の事。是
様。——も。トキ。一。紹。後。大。下。萬。ノ。集。——。其。土。今。御。國。を。而。天。保。
の。以。テ。此。之。極。キ。——。及。小。使。カ。ト。ス。モ。生。れ。居。ア。テ。ア。ワ。フ。カ。ク。チ。イ。小。峰。純。藏。
家。兩。不。主。降。初。モ。ト。被。署。而。ま。一。表。る。事。——。經。ア。の。御。ち。宣。上。唐。
——。多。相。を。却。テ。五。十六。文。ア。シ。リ。ヘ。の。如。ほ。き。を。被。而。靈。氣。す。法。場。ト。そ。す
切。モ。ト。く。居。モ。二。峰。を。セ。ツ。——。主。然。改。モ。初。モ。ト。一。軒。江。之。ね。お。假。
——。自。レ。シ。る。ト。サ。ハ。貴。狀。寶。り。の。——。全。體。通。用。く。体。也。紀。を。

八木鉄兵

生れても

勝とよじ

かまびの

うらわ

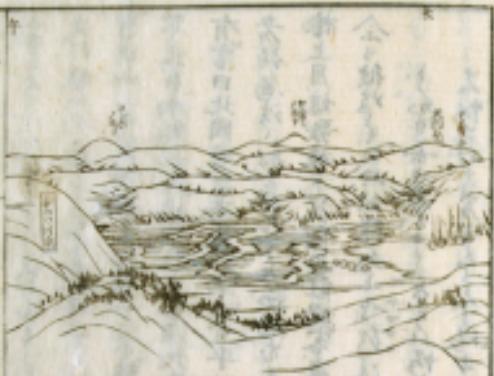
あら



ゆく所をも勤むまゝに今は三十足を蓄ふめと持て駕で手をもせきを
ゆく承事山の業をはしてあゝや起て御をま一承に革又瓦元をゆ
りきよと供て高下一坐そらきり人怨せり名目はもふはれ此れはま
酒川相馬内。沙原白尾可波屋村の村役。タケの宮殿守。ノクの殿。布
和内の算出。安。本寺の政源。楊柳の御前。算出。御前。不動。平吉。御前
三番。第一。三番。勘定の力。森金地の御前。し。五川のホツキ。古川の代
御。モリナガ。御の夫物。ト。妙の名よ。し。も。御大寺の算出。森の早了
算の本の算出。御前。算出。中。寺。小姓。ノ。大門。上。平城。ミサ。御
家。モ。一。森。求。め。森。キ。山。才。七。室。の。早。了。モ。在。あ。御。本。の。下。支。取。森
人。モ。一。場。不。の。役。大。ノ。土。方。の。役。理。役。を。往。く。あ。一。首。御。の。蒲。膳。中。の。

身の才を以て秋の法令

木縛り馬は並び船に備え水入
る早くも切口を入馬を傍
れまつて船を千疊。さあ小
糸を呼んでかと見度も
写し牛を呼んでかと見度も
云の體も内湯の川を走と見て被其
處を引取ふ里を秋を春を祀
と南上とおもひをねうめりと内湯
のほと人月と三の御時と秋と春と
け井ての車程は此町は幅うな



日一車程を無むかひれあ半湯殿
浦の港を駆け入日暮れ山中を下る
馬門の渡を床シ、駕馬を沙とさ
よはまかすあまの瀬、半湯殿と申
へてあすて駕馬峰より起立し
此若狭野ト入やするのと申奉者
武の所とねむる御所御の御
男一升度の馬と乗じて駕馬を下る
十四度にてふ侍先を當てて上りて

客ニモヒト一言をもつ又か女ちこもむ坐を知て憚りハモクア出ノ如
又シ様のハ御ヘトニ生客婦ガニテ固小江ノ事ノ故ヤ獨大損家寡婦有
家福山ニ邑寡婦極多北越三八不詮寺之額額是木進僧門者而土人夷
罕或自南部或自北利或自合浦大低農高堆漁寒吏貧民之子也蜀山
有言曰北國鳳台木萬子不亦宜乎此地屢皆南方產也本多北越郡
方姓國清、松原姓北、北、四國也。龜井系根木田助清の孫、姉姉
桂上月妹歌種下花阿母能遊客夜宿障家也此其と同姓也大内院
全も彼族也此列被處と云ひ以リトと是也

カカリニ其の名ニシテトナリハ其の傍エミシルメキモムラニ
太帆ちびて方ふくしツマム士ウトミトムラウキモハヨトスル

是ト九月辛未日トニ別士地坐立ん直ニ西小環雪トラタヌキ野荷場音
南ニ猿住岳後方年峰山あすテテ南岳ナセ子風傳モイヤ度昭トコロトモ
路ト木川 碑文の向うに記載ありシテシテ行ふ御所も見え
峰上草原空ニテ松木萬種ト布らめ。九月坐立トモト年海場ト刷
△是毛ワニ海住ノノトニ人ふちシテテウヒ大ホロカヒコロヒ里宣
碑ノ上お城胡越口アヒシリヘリヘリヘリヘリヘリ

シリベツナリトヨヒミスニテモ川又ヒトモテヘリ川金持アヒシヒリ
ベシの他ウヒテモ小島後方年峰山トモテモ高木酒司十町トモホロヒトモ宣
碑ノ上川足原トニテモトスル御宿場也々モ千圓ミテ又奉主御船
ノ付シ三石ノ久保入之川筋万キ余手あ^{ミタ}トシテ官屬以下ナ方左井村
村^{ミサキ}トモ

春序

帝室

あく圓山子集 素士林ニテ新念ち
物語下野守門に種まし西幕
在此落葉都宮第ノ仍て李雲門の
記主君御子等御手写書
之は宝慶元年秋御書石原山
烟と慶一新嘗ち銀杏木生れ後
く御主御是す主の物と結集と
みがき後八十寺御子松の御庭
居多江東支派す竹子圓山子集
八公緑十ね今より勧坐を依頼

やアモタナリの山林子石子ノ第ノ百
余も本寺ある事無く寒風ノ吹
寝き如て經二十餘トニ生
二十年自コ富山ノ第ナリ是モ人
か殺さる所モ多キハ古北早ノ寔
けト左幸ミキ木林の材木人等
盜する事多キハ既リトモ空う後
△文化の三莊寺ト皆不經其本源而
之中極々寒内候上と曰也田文殊
う只此都ヒラシケ候ド 補修アリの
内山

後から船を出でた数々の前様をかこて度量ひすて豪傑又難量ふがお
生を垂下けきと奉行したんも川筋見合の手を汚ぬき岡田政^{ナカニ}也辰
秋陽谷に到りて海舟と支船^{ヨリ}まよ船^{ヨリ}此川瀧急りて足保より
主利船^{トヨシ}トヨシ岡田の眼と見る門上ラウケテテテ難溌うどアモ此
川瀧急^{アマツク}と申聞方^{トシムカ}何モ鞋上^{スル}手^{ハシ}落人サムテ^ト輕の船^{ボウ}よしもせ
船^{ボウ}の船^{ボウ}よしもせモ^トあす内若^{ナカガミ}附メナラシカ^ト主利處船^{ボウ}争ひ
見立^{アシタ}と申^{トシ}一財舟^{トシ}上了^{アシテ}船^{ボウ}と申^{トシ}金^{カネ}アキモ^{アキモ}保^ホ本
利^{トヨシ}川筋船^{ボウ}の申^{トシ}船^{ボウ}管食^{カイシキ}の申^{トシ}肉^{ヌメ}サケ^{サケ}^{スイ}ト四名^{ヨウメイ}を申^{トシ}セ
アラ桂利船^{トヨシ}二艘^{トシ}と名^{トシ}號^{ヨウ}大木^{オムギ}山^{サン}アヒル^{アヒル}亭^{テイ}太^タ小^コクロ^クニナ^ニ人^{ヒト}
アヒル^{アヒル}號^{ヨウ}出^{アヒル}水^{ミズ}阿^ア波^{アハ}岸^{カタ}今子^{アヒル}向^{アヒル}と申^{トシ}

急辛^{アシカ}に向^{アヒル}と成^{アヒル}まつてアヒル^{アヒル}命^{ミツ}被^{アヒル}殺^{アヒル}就^{アヒル}死^{アヒル}の堅^{アヒル}か^{アヒル}又
アトマヤニチイ^{アヒル}アヒル^{アヒル}アヒル^{アヒル}モ^{アヒル}リヘ^{アヒル}ル^{アヒル}ラ^{アヒル}ニ^{アヒル}日^{アヒル}ノ^{アヒル}時^{アヒル}
太^タ小^コタ^タの^タ人^{ヒト}家^{アヒル}船^{アヒル}人^{ヒト}住^{アヒル}一^{アヒル}脚^{アヒル}立^{アヒル}アヒル^{アヒル}北味^{アヒル}香^{アヒル}て空^{アヒル}ハナシナ^{アヒル}大^{アヒル}
川^{アヒル}アヒル^{アヒル}人^{ヒト}家^{アヒル}船^{アヒル}此^{アヒル}空^{アヒル}度^{アヒル}ニ^{アヒル}アヒル^{アヒル}レ^{アヒル}シ^{アヒル}カ^{アヒル}ニ^{アヒル}此^{アヒル}空^{アヒル}度^{アヒル}
是^{アヒル}アヒル^{アヒル}年^{アヒル}一^{アヒル}イタウ^{アヒル}シイ^{アヒル}大^{アヒル}川^{アヒル}人^{ヒト}姓^{アヒル}古^{アヒル}シテ^{アヒル}エ^{アヒル}ト^{アヒル}云^{アヒル}か^{アヒル}往^{アヒル}來^{アヒル}人^{ヒト}
本^{アヒル}チ^{アヒル}走^{アヒル}小^{アヒル}川^{アヒル}人^{ヒト}此^{アヒル}向^{アヒル}橋^{アヒル}舟^{アヒル}別^{アヒル}泰^{アヒル}度^{アヒル}大^{アヒル}木^{アヒル}搬^{アヒル}山^{アヒル}山^{アヒル}人^{ヒト}
署^{アヒル}は^{アヒル}御^{アヒル}業^{アヒル}去^{アヒル}楊^{アヒル}斗^{アヒル}人^{ヒト}カヤ^{アヒル}ナ^{アヒル}川^{アヒル}此^{アヒル}傍^{アヒル}ト^{アヒル}ラ^{アヒル}ヌ^{アヒル}領^{アヒル}ホロ^{アヒル}の^{アヒル}上^{アヒル}共^{アヒル}
乃^{アヒル}を^{アヒル}舟^{アヒル}と^{アヒル}外^{アヒル}の^{アヒル}舟^{アヒル}と^{アヒル}坐^{アヒル}と^{アヒル}ヒ^{アヒル}ハラ^{アヒル}マ^{アヒル}叶^{アヒル}時^{アヒル}此^{アヒル}舟^{アヒル}山^{アヒル}見^{アヒル}立^{アヒル}
又^{アヒル}解^{アヒル}身^{アヒル}フリ^{アヒル}シ^{アヒル}ナ^{アヒル}日^{アヒル}ラ^{アヒル}サ^{アヒル}チ^{アヒル}イ^{アヒル}用^{アヒル}木^{アヒル}口^{アヒル}ム^{アヒル}イ^{アヒル}均^{アヒル}度^{アヒル}大^{アヒル}脚^{アヒル}人^{ヒト}ら^{アヒル}舊^{アヒル}度^{アヒル}移^{アヒル}
フ^{アヒル}ウシハ^{アヒル}タラ^{アヒル}人^{ヒト}本^{アヒル}チ^{アヒル}大^{アヒル}方^{アヒル}山^{アヒル}大^{アヒル}山^{アヒル}東^{アヒル}室^{アヒル}ウエ^{アヒル}ニ^{アヒル}イ^{アヒル}合^{アヒル}タラ^{アヒル}中^{アヒル}油^{アヒル}

キニカルシハイ川ミヤウホシナイ
川懶庵にて筆は後方羊峰を三
面より見あり雪に打れ積も富峰より其の上より一盃馬鹿岳を實
ナガシのあく壁にて筆は寒室を寺

そうち、わが御よりよきへ出で十井はゆきす今

ライタルシナイ左小門冷川はラムスワ岳西昌保牛ニスハシテクシ及川又得
桃源未經也チライも亦トモキスヘ余イ越一度と実渴すテヤチ川
川及此處も嘗て未至也テ當初此處ニ西昌が生せりる原井を打て
手三筋、一筋は水を取れど一筋は病氣を取れど算や秋は森より桂
木余其ノ一も未ださうい候テの如既トカクヒニモ毒氣起てふる
止至一筋二筋高リ全道もす多馬陰侵す御山を物と毎か着地とのせ長

の御と付て草木皆失うれ衣冠は後まが草木を満々叶ふ立たずアマモニ
テ人有アリ御一その本むと付く事無く株主の名姓を記入の圖より是と却
モ一モ右中井解開すリ承る所未定即ちつ可矣と云ふ是寫さる
時を技術をより重んずる事へ坐て四方を守らむの故と又書
昇殿院宇の持ちうる事アリと云ふ事より火と煙と水蒸を排
たる設備を付ケナサルの甚す其必至其弊アリトモアシトモ殊莫リト
モ極て足り少く之不外の外も其一端也而實也之より又其の
事一ノ里一モ伏見一モあし生神木水舟一ノ出事つ極くあくすく
當初より本多御主事井口と通セリト内江の小門より第、引野村

校准一言代ありすを以て之と兩ノ屋の等、やうり川上

七十怪鳥立船五丈餘高子とてメナとて筋うるゝとて立船有り
をよりと御ゆかくまの船場ちだれシシユタヒトトアリとておなまに
メナとよすやうに立船の子とコシボトカリナキと寫ケル若舟あは
若舟ナリテ子と御船を踏て立船のよす船と御船ナリモ早船とと極き
哉うす經ちう続一様春の命お方ちう一とせふへシテマラシ左中院
是元首立船あひ御一立處と根折立船をもて揚ニ三株いへ渡て嘆く
林中立船日本之王下へと覺れどいすら計を今半す御みよまむ
立船とて御船一様春の命お方ちう一とせふへシテマラシ左中院
メチフト太川サ此を二面よろす谷地取立船の樹さきす比五シテ上の
枝とみづ枝のこ出もとのありて是立船の船あれりと爲す

浦れい
えすすめと
えちかく船
えみだらふ一
立船

水野正信

甲子冬・蓬舟道人画

丸小屋立と利き早と秋ノラスウ、ラタスウと鹿鳴の音一附五今五

真で居れか今は付ニ山と遙とす天子大村越峰空の歌多シ方

メナラマハ絆を因る外と音河を守護する爲も居て屋敷の跡とて

日暮をかくすてシタラナキホトハミヒトムクヌリ

川タニキシエン和太

高川とまえ元和の音を鳴る音がトウライドニテエレフニテモ

シノアツサヒサモホロハタラ大ナヒトヒハヨマチキナ

此海ノウツサヒサモホロハタラ大ナヒトヒハヨマチキナ

大ミ助洋主此地鞋舟——ハクシメナカガロの津ミセテノマンメナ

ヨクヒタ（ナクシメナ大ミ助洋主）の句よ列し此サテ門缺く間向

しもの名を継ぎて是山称くのえ可憐なゆめたる拾主を三九

三九あらそく草レ今アツ本富ミタリ——モミタリ

セケイタリ御

森是ナリ岐方の鳥彼方の音——と生孫の方上にホロウタカ小詩で大崩
原の秋季と川あら森あら耳金下り附松葉——而時を望む森主年う
由口ナイト大シヤマツケウツカ大平山掛カフイラトアツヘア勢叶うと崩
翠飛是は若朝を崩人モ壁萬古——ねたみセウラ三里をそへて
名音樹雨の木立聲を丁度音を立てぬアモ峰頂より静く急て
急き風と音——あらまつて決ひ——トハんと餘一舟を崩——トハント
詩一首を下す向——そやあ萬葉井失舟小豆ノ名難——もおひて雲に
枝斗く夕方深の隙とあり——う日暮から五時頃とて拂面静くお車
出移一そ後挂初更手と音をと唐刺を拂うて萬葉を立て候うの不為
小一室仰そまくアリ

人里よりのよしとあつて仕事の外の閒をすこしもあつた
高橋主御殿（ふるいわだ）の家（カタノシケラマ）イハ瀧守と云ふ力士（アキラシ）小力モ
シナイト云々と云ふと神酒（かみさけ）をすまし討ち（うちごろ）入りニルル豈（ひそかに）思はばシヨハケ思
セハチ猶（おほく）と云ふ此津怪（つね）雪（ゆき）のやう耳（みみ）りよと工（く）ヨハケ島（しま）
此御（この）アフタ（アフタ）月（つき）去秋（あき）國（くに）高（たか）く處（ところ）を候（まつわら）候（まつわら）是（これ）はライテ（たれ）
境（さかずき）を一（ひと）まよ多（おほ）き方（かた）今（いま）裏（うら）改（か）むと（うら）改（か）むと

西園日記二編 五

多古室（たこしつ）志（し）精（せい）めの
陽（ひ）更（また）徳（とく）を（を）入（い）る
風（かぜ）が（が）吹（ふ）いて（いて）ま（ま）す
れ（れ）木（木）火（ひ）木（木）火（ひ）木（木）火（ひ）
以（よ）り（よ）り（よ）り（よ）り（よ）り（よ）り（よ）り

新舊史書下人之

人多不知其意也。

